

平成 16 年度第 1 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 16 年 6 月 19 日 (土) 10:30~15:00

2. 場 所 東京夢の島マリーナマリセンター 2階会議室

3. 出席評議員 (順不同・敬称略):

(加盟団体) 北海道: 浜田賢 (委)、青森: 平久保長蔵、岩手: 榊頭治、宮城: 相澤孝司 (委)、秋田: 佐藤利秋、山形: 斎藤和久 (委)、福島: 佐藤利松 (委)、外洋北海道: 小澤貢一、外洋津軽: 木立正博、外洋いわき: 平崎正文 (委)、栃木: 森谷茲充、群馬: 中川淳、埼玉: 石井次男、千葉: 斉藤威、東京: 田中耕司、神奈川: 浜崎濠次郎、山梨: 羽田定造 (委)、新潟: 立川喜代博、静岡: 中嶋浩二郎、外洋東京湾: 福田義一、外洋三崎: 川久保史朗、外洋三浦: 外山昌一、外洋湘南: 浪川宏、外洋東関東: 横田光夫、外洋駿河湾: 山田良昭、愛知: 森信和、三重県: 景山裕二 (委)、岐阜: 伊藤和典 (委)、外洋東海: 森岡稔夫、富山: 番匠茂 (委)、福井: 高間博之、滋賀: 山田将人 (委)、京都: 岩崎勝 (委)、外洋近北: 樋口誠 (委)、兵庫: 川上宏、奈良: 安澤厚男、外洋内海: 妹尾達樹 (委)、岡山: 馬場正彦、広島: 瀬尾潔、山口: 藤岡悞 (委)、香川: 葛西和久、愛媛: 黒川重男、高知: 文野順夫、福岡: 岩瀬広志 (委)、佐賀: 松山和興、長崎: 今道穎治、鹿児島: 大迫哲弘 (委)、外洋玄海: 冬至克也、外洋南九州: 橋元幸一 (委)

(特別加盟団体) 全学連: 杉山嘉尚 (委)、高体連: 澁谷有人 (委)、実業団: 外尾竜一、自治体: 小宮三雄 (委)、ヨットクラブ: 野尻敦也 (委)、シホパ: 山近雅彦、レザ: 山形和生、ウインドサーフィン: 千葉貴生、スイング: 澤村治男 (委)、シホス: 北川浩司、FJ: 古屋勇人、テザ: 本吉讓治、ドラゴン: 國井重人、49er: 高野学 (委)、近北水域ミッド: 高橋利明、KYC: 猪上忠彦 (委)、丸大阪: 小林昇 (委)、関西ミッド: 植松由量、東海ミッド: 坂倉純二 (委)、関東ミッド: 野口隆司、外洋四国: 瀬川洸城 (委)、湘南マリナ: 渡邊康夫、東海マリナ: 坂谷定生、学生外洋: 中里英一、財務: 市原恭夫、身障者: 大塚勝、外洋女性: 米田直子、ジャーナリスト: 森下嘉樹、設計: 高橋太郎

以上出席 78名 (内委任状出席 27名)

欠席評議員: (加盟団体) 茨城: 小野尚士、長野: 横山真、石川: 石倉喜八朗、大阪: 岩崎洋一、和歌山: 山本嘉一、鳥取: 善波周、島根: 幸野孝治、外洋西内海: 金井寿雄、徳島: 石井良直、熊本: 山内啓次、大分: 後藤督、宮崎: 後藤眞宏、沖縄: 有銘兼一

(特別加盟団体) シュニア: 中根健二郎、470: 五味克博、OP: 国見悦朗、J24: 久保田悟、瀬戸内海マリナ: 野田福美

以上欠席 18名

(代理出席) 熊本: 本田肇、全学連: 高橋雅弘、スイング: 岡昌憲、49er: 高清水裕子

以上代理出席 4名

(その他出席者)

会長: 山崎達光、副会長: 戸田邦司、河野博文、専務理事: 昇隆夫、常務理事: 富田稔、理事: 伊藤宏、大庭秀夫、児玉萬平、鈴木保夫、棚橋善克、戸張房子、前田彰一、高橋順

一、稲葉文則、水谷益彦、河内道夫、中山明、吉田豊、小田泰義、西原敏文、
監事：一條實昭、藤沢誠一、顧問：小田切満寿雄、米澤一、
委員会：山田敏雄競技力向上委員長、川北達也ルール委員長、名方俊介レース委員長、小
松一憲アテネオリンピック特別委員会副委員長、松原宏之レディース委員

以上その他出席 29 名

4 . 議題事項

- 1) 平成 15 年度事業報告 (案)
- 2) 平成 15 年度決算報告 (案)
- 3) 平成 16 年度第 1 次補正予算 (案)
- 4) その他報告事項

5 . 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 96 名中、出席 78 名 (内委任状 27 名) で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は浪川宏評議員に決定し、平成 16 年度第 1 回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、石井次男、横田光夫の両氏が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

山崎会長より、本会におきましては平成 15 年度事業報告および決算報告等の重要案件につき新評議員各位の同意のほどお願いしたい旨、挨拶があった。連盟専務理事・アテネオリンピック特別委員会委員長の松田健次郎氏の急逝につき、心よりご冥福をお祈り申し上げる。後任専務理事については、昇隆夫常務理事を寄附行為 18 条 3 項に基づき理事の互選において専務理事に、また、理事の補充はしないことで理事会承認された。

「アテネ・オリンピック・セーリング競技日本代表選手団激励壮行会」は、関係者のご協力で成功に終了した。埼玉国体ならびに愛・地球博パートナーシップ事業にご協力をお願いしたい。スポンサー付きレース等を検討するとの発言があった。

昇隆夫専務理事より、連盟の意思決定にスピードをもって対応していきたいとの挨拶があった。

河野副会長より、平成 16 年 6 月 11 日（金）、社団法人日本外国特派員協会で開催された「アテネ・オリンピック・セーリング競技日本代表選手団激励壮行会」について、倭実行委員長に代わり、御礼のご報告があった。寄付金等については、選手団・コーチに進呈するとの発言があった。

議題 1) 平成 15 年度事業報告（案）

昇専務理事より資料に基づき、平成 15 年度事業報告（案）について説明があった。

近年の少子高齢化現象ならびに経済不況によるメンバーの減少、新艇の激減等の厳しい環境のもと、セーリングスポーツおよび海事思想の健全なる発展ならびに普及を図ることを目標とし、各委員会事業を行った。平成 15 年度は、新規設置委員会も含め、委員会を 5 つのグループに分け、機動的運営を図った。また、現場との距離を近づけるために、全日本選手権レースにスポンサーを付けて援助するべく努力したい。日本財団助成事業の大分県セーリング連盟主催のジュニア、障害者体験セーリング大会は総合型地域スポーツクラブの手本となるようなすばらしいものであったとの発言があった。

質疑等なく、満場一致で同意を得た。

議題 2) 平成 15 年度決算報告（案）について

鈴木理事より資料に基づき、平成 15 年度決算報告（案）について説明があった。

一般会計の収入について、会費収入は予算に対し 548,190 円増となった。加盟団体負担金、特別加盟団体負担金、登録認定料収入は合計で 1,528,337 円減となった。事業収入は広告料、艇計測料、業務用品販売収入が大幅に予算を下回り事業収入全体で 5,054,468 円減となった。補助金収入は期末に補助金がついた事業もあり、総額で 9,178,710 円増となった。それに伴い、負担金収入も 14,902,508 円の増額となった。寄付金等収入は、日建レンタコムの協賛金により 14,517,893 円増となった。免税募金からの繰入金は 1,144,600 円減となった。以上の結果、当期収入は予算 155,000,000 円に対して 32,481,678 円増の 187,481,678 円となった。

一般会計の支出について、事業費は団体交付金および負担金支出が減ったが、補助金事業等が増えたことにより、事業費全体では 38,244,830 円増となった。管理費は、人件費・運営費ともに予算を下回り、合計で 1,664,913 円減となった。オリンピック特別会計への繰入金支出はアテネ特集号の制作費 5,000,000 円がオリンピック特別会計に計上されていたための増額分 5,000,000 円と五輪基金収入の減額分 2,190,000 円および免税募金繰入金等の差額を相殺し、2,274,911 円増となった。以上の結果、当期支出合計は 32,404,428 円増となり 184,167,428 円となった。当期収支では 3,314,250 円の黒字決算となった。

オリンピック特別会計では、補助金等収入および免税募金繰入金が増えたことにより、当期収入合計が 10,151,256 円増の 65,667,256 円となった。支出は 3,483,739 円増の 65,601,239 円となり、収支差額は 66,017 円の黒字となった。

免税募金特別会計では、主にオリンピック関係の寄付金が増えたことにより、8,670,000 円の増収となったとの説明があった。

補正予算作成については、予算額と大幅に差異がある場合（従来 2,000 万円を目安としてきた）や赤字決算になる場合を除き、補正はしなくともよいとの指導を受けている。総支出額に予備費をあてていることより、予備費流用の対処の仕方に問題があったが、次年度に改善する。また、監査法人監査において、オリンピック特別会計と委託金事業報告とに金額の差異を指摘された。これは、オリンピック特別会計には補助対象外の科目が含まれているためであり、現在精査中との発言があった。

一條監事より、監事監査報告書に基づき説明があった。

外洋玄海の冬至評議員より、一般会計前期繰越金に予算と決算で差異が生じているが内容について説明いただきたい旨、質問があった。

同意を得た。

議題 3) 平成 16 年度第 1 次補正予算 (案) について

鈴木理事より資料に基づき、平成 16 年度第 1 次補正予算(案)について説明があった。補正予算作成に際しては、補助金・助成金・委託事業を確定した金額に訂正している。一般会計では、外洋統括委員会外洋通信委員会で 500,000 円の HF 撤廃支出を計上した。文部科学省委嘱事業スポーツ交流推進事業 3,565,000 円を計上した。

免税募金特別会計では、愛知万博事業免税寄付に 69,200,000 円計上した。アテネ基金寄付に 6,500,000 円増でオリンピック特別会計への繰入金が増額した。平成 16 度当期(一般・特別・免税)収入合計は、当初予算に対して 67,244,000 円増の 319,903,000 円となり、支出も同額 67,244,000 円増の 319,903,000 円としたとの説明があった。

外洋東関東の横田評議員より、会議資料などの印刷・発送費は、経費削減から IT 電子化データなどで対応できるとの提案があった。

同意を得た。

報告事項

- (1) 平成 17 年度国民体育大会開催地の岡山県牛窓町長・東原和郎様から挨拶があった。
- (2) 平成 16 年度定期表彰授賞式が行われた。中山総務委員長より、功労賞に赤津光昭氏・北住威彦氏・小松勇一氏・松田菊雄氏・故松田健次郎氏（特別功労賞）・三井祥功氏の 6 名、有功記章に浅野秀則氏の功績が講評され、表彰された。
- (3) 河野副会長ならびに小松アテネオリンピック特別委員会副委員長より資料に基づき、第 28 回オリンピック競技大会（2004・アテネ）代表選手団について報告があった。
- (4) 中山総務委員長より資料に基づき、平成 17・18 年度役員選出について、「財団法人日本セーリング連盟役員選出規程」「財団法人日本セーリング連盟選挙規則」の説明があった。

外洋東関東横田評議員より、連盟理事の任期・定年の変更は現在までの背景・経緯から、連盟委員会委員長に権限を移行していくと理解していたが、任期の延長は妥当かとの質問があった。

- (5) 昇国体委員長より、本年度埼玉国体における実施要綱の変更ならびに愛知万博における SS 級全日本大会について報告があった。SS 級国体少年男女種目導入については、愛知万博及び 18 年国体開催の兵庫県にそれぞれ艇の用意をお願いしている。これに目途がたてば兵庫よりの導入を強力に進めたいとの発言があった。
- (6) 名方レース委員長より資料に基づき、平成 16 年度レース委員会事業計画、レースオフィサーセミナー講習会の開催計画について、特別加盟団体対象の定例レース委員会報告、ディンギー系全日本選手権大会のグレード区分等の報告があった。
- (7) 前田 IT 対策委員長より、メンバー登録システム IT 化について、JSAF ホームページ上に会員登録サンプル（イメージ）を作成した。登録フォーム等も含めて、加盟団体各位よりご意見をいただきたいとの報告があった。
- (8) 棚橋指導者委員長ならびに斉藤指導者副委員長より資料に基づき、バッチテスト変更を来年度より施行するため準備をしている。また、スポーツ指導員の再登録や有効に活用していただきたいとの報告があった。

愛知県森評議員より、指導員資格の移行に伴う、国体監督の資格制度についての変更等の質問があった。

- (9) 川北ルール委員長より、ジャッジ資格失効に伴う確認報告、RRS 改正に伴う更新講習会を全国 9 箇所決定して通知予定、ルール委員会史の発行、ジャッジ規程変更について報告があった。
- (10) 小田切顧問より、アテネオリンピック日の丸応援団の活動報告があった。
- (11) 水谷普及委員長より、外洋東関東横田評議員の意見に対し、回答があった。
東京都田中評議員より、小型船舶登録の質問があった。
水谷理事より、高体連澁谷評議員からの質問に対する回答があった。

以 上

浪川議長から他に意見・質問を求めたが、特段なく終了した。

本日の評議員会の議題は上記の通り議決承認されたので、議事録署名人は次に記名捺印する。

平成 16 年 6 月 19 日

議 長 浪川 宏

議事録署名人 石井 次男

議事録署名人 横田 光夫